

- 1 当該学年・学期等における探究課題 《郷土愛と働く人々の思い》
- 2 単元名 『伝えよう・広めよう！私たちのまち』（全50時間=実施時期：5月～2月）
- 3 単元のねらい

地域の歴史的建造物の見学や地域の方との交流を通して、地域の方の思いや願いを理解し、自分たちにできることを考え、ふるさと稲倉をより大切にしていこうとする態度を育てる。

4 主な活動とふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと（こと）」との出逢い・関わりの仕掛け、引き出したい子どもの姿

		課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
<b>主な活動</b>		・井原市の魅力的な施設や特産物を知る。	・見学体験や地域の方へのインタビュー（地域の歴史、職業観等）を通して、調べる。	・地域の魅力や地元で働く人々の思いについて考える。	・郷土を誇りに思い、これからの将来や夢に向けての自己実現ができるようまとめ、発表する。
<b>引き出したい姿</b>	<b>いばら愛</b> <small>(郷土愛と当事者性)</small>	・稲倉に伝わる歴史と自分たちのくらしに興味をもち、進んで調べようとする意欲を高める。	・地域の歴史について知る。	・調べたり集めたりした情報と自分たちの生活を関連付けて考えることができる。	・井原市・稲倉の魅力や働く人の思いに気付く。
	<b>やり抜く力</b> <small>(忍耐と向上心)</small>		・自分の調べたい課題について最後まで調べ抜く。		
	<b>まき込む力</b> <small>(発信と協働)</small>	・稲倉に伝わる歴史をタブレットを活用して文書にまとめ、クラス全体で情報を共有する。	・疑問に思ったことやさらに調べたいことを伝えている。	・調べた情報を友達と協力しながら整理・分析している。	・地域で働く人の話から参考にし、自分の考えをタブレットを活用して文書にまとめ、発表する。
<b>仕掛け・工夫</b>	<b>もの</b>	・明見銅鐸 ・井原デニム	明見銅鐸出土地、匠ヶ城址、大星山登山、古代まほろば館、仕事紹介の本（図書）		
	<b>ひと</b>		稲倉の歴史に詳しい地域の人	他学年の先生	市内に住んでいる方 市内児童
	<b>しごと（こと）</b>	・公民館主事（塩飽千歳さん）	地域で働く人 （ホンダカーズ井原 本井雅人さん）		
<b>アウトプットの工夫</b>		・調べた内容、地域の人との関わり、今後の生き方についてタブレットにまとめ、プレゼンテーションの映像を作成する。 ・調べた内容をポスターにまとめ、公民館に掲示することで、より多くの地域の方に広まるようにする。			

5 他教科・領域、学校行事等との関連

社会科「大昔のくらしとくにの統一」  
Ancsプログラム

6 他学年、他校（園）種、外部団体との連携・接続・交流

稲倉小学校の異学年児童

◆単元のねらい「地域の歴史的建造物の見学や地域の方との交流を通して、地域の方の思いや願いを理解し、自分たちにできることを考え、ふるさと稲倉をより大切にしていこうとする態度を育てる。」

課題設定

稲倉の歴史的建造物の紹介をし、稲倉のよさに気付く。



公民館の方のお話を聞く。

地域の方に明見銅鐸のことがあまり広まっていないことを知る。

「明見銅鐸の良さを多くの人に知ってもらいたい」という目標をもち、銅鐸について調べるグループと明見銅鐸について調べるグループに分かれる。

情報収集



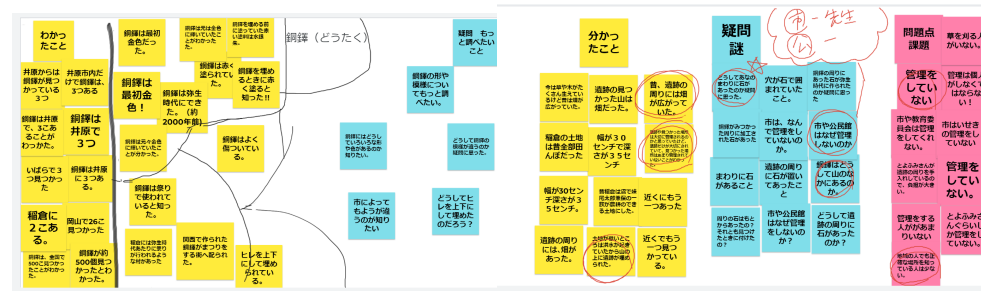
まほろば館に行って郷土の魅力に気付く。



地域の人をお招きして、明見銅鐸出遺跡や匠ヶ城址の見学をする

銅鐸と井原市内で見付かった銅鐸についてパソコンを用いて調べる。

整理・分析



見学して、感じたことや分かったこと、疑問に思ったことなどをジャムボードに整理する。

まとめ・表現



効果的に伝わるように図や動画を入れてスライドにまとめる。



調べたことをスライドにまとめ、保護者や地域の方に伝える。



公民館にポスターを掲示していただき、地域の方がいつでも見ることができるようにする。

◆成果 (○) ・課題 (△) ・来年度に向けて (☆)

○調べたことを発信する場を多く設定したため、児童の発信力・表現力やふるさと井原に対する思いを高めることができた。また、様々な人たちに自分たちが調べたことを聞いてもらったことが子供たちの達成感につながったと感じた。  
 △学区内の企業との関わりが希薄であり、接点を増やすことも必要であると考え。1年を通して取り組んでいたため、2学期にはまとめができるように計画した方が良い。  
 ☆いばら愛を育てるためにも、引き続き教科との関連を結び付けていきたい。